



大きな百合の木の木の下で

IBARAKI UNIVERSITY NEWS LETTER

SPRING 2009 No. 17

茨城大学ニュースレター



2009

●特集

◎大学の教員 仕事の「相棒」

●学生が語る 《自慢のゼミ・研究室》



茨城大学
Ibaraki University

特集

大学の教員 仕事の「相棒」

わたしはこのような「モノ」「ヒト」とともに研究をしています。

大学教員にとって研究は大学の仕事の中でも最も重要なもののひとつです。

順調に研究を進めている時に、研究室の一隅に自分を見つめてくれているモノがあるかもしれません。

また、大きな問題が目前に立ちふさがる。そんな時、その問題に立ち向かう勇気を与えてくれたり、後押しをしてくれるヒトがいるかもしれません。

今回の特集では、大学教員の仕事＝研究の際に、安らぎや力などを与えてくれる仕事の相棒を紹介してもらいます。



趣味を相棒として仕事に取り組む

私が講義やゼミで学生によく言うことは、「趣味を相棒として仕事に取り組むこと」である。私自身はスキーと音楽が最高の趣味で、スキーの腕前は自称中級レベルというところであろう。雲一つない晴天の日に、ゲレンデ頂上から雪化粧した遙か遠くの山々を眺めているときの気分は爽快の一言につきる。そこにはばらく立っていると、研究のこと、将来のこと、家族のこと、大学のことなど色々なことが頭の中を駆け巡るのである。

今から6年前、当時としては世界初の「脳波を用いたロボットマニピュレータの制御」の研究を手がけたキツカケは、実はそんな時ふとスキーをしながら思いついたアイデアなのである。今では笑って話せることであるが、私は曲がりながら滑ることが嫌いなため、それまで毎回ゲレンデ頂上付近からほぼ直滑降で滑っていた。しかしある時転倒して胸を激しく強打し、それ以来、曲がることも覚えなかったのであるが、この教訓として、何事もストレートにのみ考えず、時にはスキーの時のように異なった観点から物事を見ることが大切であると言ったことである。

このような物の見方をしたことによって、より良い脳波を生かした研究が遂行でき、今日に至っている。まさにスキーは色んな意味での私の相棒なのである。

一方、大学と言うところは会議が非常に多い。単に多いだけでなく時間も長く、当然ストレスが溜る。この簡単な解消法が音楽である。通勤の行き帰りの車の中で、さらには自宅でステレオ装置のポリウムを上げて好き

な音楽を聴く。ポピュラー、クラシック、ジャズ、ボーカル、ロックとジャンルは多彩である。

中でも女性ボーカリストのセリーヌ・ディオンやサラ・ブライトマンの、あの伸びのある曲を聴いていると、会議の疲れなど忘れてしまう程である。そしてサラ・ブライトマンの「Time to Say Good Bye」を聴きながら、「そう思えるような恋が出来たら」と柄にもなくもう一度青春があつたらなー、としんみり思う時もある。

また時には、ビートルズやハードな曲を聴き、一緒に口ずさみながら、カエルのようなステップを踏んで一人で苦笑することもある。音楽もまた仕事のストレス解消の良き相棒である。

副学長(教育担当) 白石 昌武



ゲレンデで気分をリフレッシュ

名采配を支えてきた笛とカード

教育学部 教授 岡本 研二

「先生のこだわりの道具は？」と問われたが、そんなものあるわけないよ！と思いつつ、小さな愛用のバッグをあげたら、あった、あった！なぜか、いつも財布とともにこれが……。赤い小袋に入った笛とYCCカード。

十五年前に定年で引退するまでは、共に世界中を駆け回った証しが今も一緒。ハンドボールの国際審判員として、ユニバーシアードやアジア大会で名采配？をふるった「こだわり」の逸品。わずか、一〇〇〇円程度の一見どこにもある小道具にすぎないのに、なぜ捨てられないのか。「これは単なる笛ではない。良き審判員とはオーケストラの指揮者なのだ。だから、これは楽器であり七つの音色を吹き分けなくては一流ではない」と世界の審判長に怒られながら、必死に乱闘騒ぎの試合を裁いたあの頃を今も忘れるな、という意味か。

そして今なお商売柄、グラウンドや体育館、場合によっては教室でもこの道具がチャント役にたっているのにビックリ！ 体育の実技授業では、時には厳しく、時には優しく、この笛の音色で囁いたり、伝えたり、誉めたり。もっとも効果的なのは遅刻してきたり、態度の悪い学生？に、「おい、今回はイエローカードでと

どめておくけど、次はレッドカードで授業失格だからな」。少し、ニコッと笑って、優しくめに提示すると、今時のサッカー好きの学生たちには効果覿面！そっぴいえばあの時、世界の審判長、こんな言い方もしていた。「審判員は教育者でもある。悪いことをした生徒を罰することは誰にもできる。教育とは悪いことをする前に教え、諭し、良い行動に導くことだ。一番すばらしい試合とは審判員が反則の笛を一度も吹かないことだ。」

そうか、自分のこの笛へのこだわりは、これだったんだなあ！ みんな私の笛の洗礼をあびてみませんか、きつと幸せな気分になれますよ！



笛とイエローカード

特集 大学の教員 仕事の「相棒」

超伝導岩石磁力計

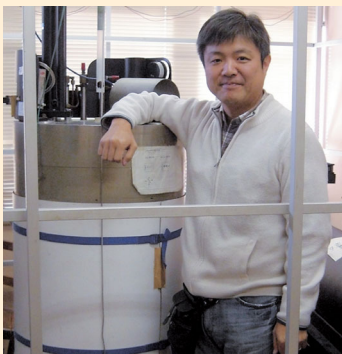
理学部 准教授 岡田 誠

私の専門は古地磁気学です。古地磁気学とは、岩石が記録した微弱な磁化を読み取り、過去の地磁気を復元することで地球の歴史を解き明かす学問です。そのために必要な機器が岩石磁力計です。

現在使用している米国製の超伝導岩石磁力計は、今から十八年前に茨城大へやってきました。同じ講座の教授が、新しい分野を開拓するために購入したのですが、専門家が必要になり、その二年後に私が助手として採用されました。

当時、国内では超伝導岩石磁力計はまだめずらしく、私も実際に使用するのには初めてという状況の中、測定から維持・管理まで、試行錯誤の連続でした。

超伝導岩石磁力計は、超伝導素子を駆動するために必要な低温を維持するため、液体ヘリウムが必要となります。磁力計の外観は大きなドラム缶のようですが（写真参照）、中はほとんど液体ヘリウムを入れるための魔法瓶です。そして、液体ヘリウムの蒸発を抑えるために、魔法瓶を冷やす冷凍機が常に大きな音をたて動いています。満タンで五十リットルの液体ヘリウムは、通常十ヶ月ほど持ち、魔法瓶が空になる前に次の液体ヘリウムを注入します。し



超伝導岩石磁力計

かし、故障等で冷凍機が動かなくなると液体ヘリウムは数日間できなくなり、磁力計の温度が室温まで上昇するので、次の液体ヘリウム注入が一大事です。注入された液体ヘリウムは、魔法瓶の熱のため一瞬で蒸発して圧力を上げるため、少しずつしか注入できません。すこしずつボタボタと液体ヘリウムを入れ続けること十時間、五十リットル程使ったところで魔法瓶が十分に冷却されます。その後は液体ヘリウムがたまり始め、トータル百リットル使ってやつと魔法瓶が満たされます。

私が茨城大にきてから十六年間、部品の劣化等の故障でこれまで六度ほどこうした作業を行いました。磁力計が休んでいたのは合計でも六ヶ月間程です。よくがんばっている磁力計、これからも大切に使っていきたいです。

“畑仕事”を愉しむために

農学部・フィールドサイエンス教育研究センター 准教授 小松崎 将一

癒しという言葉が、広く使われるようになってきましたが、私たちは植物や土との係わり合いを通じて、癒されることが多くあります。特に畑仕事には、青空の下で体を動かしながら心身ともにリラックスできることなど、愉しさがいっぱいあります。

畑仕事は種まきから苗づくり、草取り、施肥や整枝などの栽培管理、そして収穫や堆肥作りなど四季を通じて様々な作業があります。これらの畑仕事を愉しむためには、愉しむためのスタイルもとても大切です。

まずは、帽子です。強い日差しのある夏の暑い日でも帽子があれば大丈夫です。冬の寒い日も帽子があると寒さを感じません。少しぐらいの雨が降ってきてても、作業をやりとおせることができます。

次にエプロンです。研究室で原稿を書いているときや、学生とディスカッションや、実験室で分析作業を



畑仕事もスタイルから

したりする合間に、「畑はどうか？」「トマトは大きくなったかな？」とおもってエプロンをつけて畑にでると、土いじりも苦になりません。

また、軍手も役立ちます。有機野菜をつくるためには堆肥などの有機物を畑に散布します。堆肥を直接手で触ることがためらわれる場合でも軍手があれば平気です。このほか、はさみやかごなど、野菜の収穫には欠かせません。

農学部フィールドサイエンス教育研究センターでは、市民といっしょに有機野菜を生産する『ゼロからはじめよう家庭菜園』公開講座や、茨城県立医療大学附属病院と連携した園芸療法のとりにくみを行なっています。青空が広がり清しい秋風の中で、「こんなに大きなサツマイモが収穫できた。」「甘いニンジンが収穫できた。」と地域の方々と畑仕事の愉しみの輪を広げています。

研究をすすめる時、ちょっとした休息の時、こんな心強い「モノ」「ヒト」が傍に居た。

ロボットは良き相棒

工学部 准教授 城間 直司

“仕事の相棒”をひとつ挙げるとするならば私の場合は“ロボット”です。

それは、私の研究分野がロボットに関するからだからであり、仕事柄学生時代からこれまでに実に様々な種類のロボットたちと関わり合いを持つてきました。

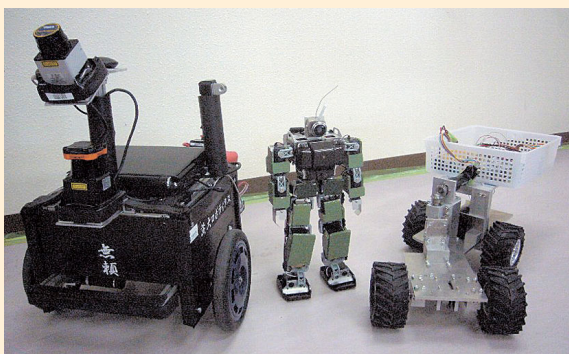
ロボットは人間の相棒と同じような意味合いでも捉えることができ、また仕事をする上での道具でもあります。そして、自らの手で作り出すことのできる相棒さえあります。ロボットも人間と同じように放っておかれると機嫌が悪くなり言うことを聞かなくなってしまう。

だから、こまめなメンテナンスは欠かせません。観客がいる前でその雄姿を披露する場合には緊張のためか、これまで普通に動作していたのに急に動かなくなったりもします。ロボットは確かに機械ではありますが、人間が関わっている以上どうしても人間臭いところが出てくるもので、そこがまた興味深いところでもあり魅力であります。

ロボットと聞くと多くの人が人型のものを想像されるかと思いますが、実際には車輪型、クローラ（キヤタピラ）型、ヘビ型など人型以外のものがほとんどであります（わたしが

関わったもののほとんどもそう）。

現実のロボットを目の当たりにすると映画やアニメの想像の世界と実際の技術とのギャップに驚かれます。そのようなロボットたちですが、これからも発展途上であるロボットを温かい目で見守ってもらい、まだまだ技術の進歩が期待できるロボット分野において、若いみなさんの想像力、そして創造力を生かして誰もがロボットをマンガの世界に負けないくらい身近なよき相棒として持てる世界を実現できればと願うところでです。



いろいろな型のあるロボット

道具と歩むヒト ～ある「考古学者」のケース～

人文学部 准教授 田中 裕

山育ちの私には、あらゆる山・川・畑・田んぼ・「ヒトのおウチ」が日常の遊び場でした。ある日、近くの畑で拾った不思議なカケラが太古のヒトのものだと知ったとき、山奥にも消えることのないヒトの痕跡が残ることに感動し、広い世界にはきつとスゴイものが隠れているに違いな、やがては世界中を飛び回り、決定的証拠を握って歴史を塗り変える「考古学者」になるんだ、そんな「世界制覇？」の野望を抱いたのです（※子どものユメです）。

大学進学の前、「合格祝い」として、少し高価なカメラを購入しました。「考古学者」の必須アイテムだと思ったからです。ペンタックスSFX。当時最新鋭の自動焦点一眼レフ、ペンタックスの量販モデルとしては最初期のものです。

以後二十年間、行動を共にしてきたこのカメラ。学生ときの博物館巡り、公務員になっての新任研修、そして新婚旅行など、人生の節目も撮ってきました。なによりも、遍歴にかかわらず続けてきた考古学。日本の春夏秋冬、果ては東南アジアの樹林帯や中東の砂漠など、過酷な現場にも常時携行しました。手に馴染んだ「彼」ならば、素人にありがちな失敗をせず、どんな環境下でも、

目で観察したとおりの記録を残すことができるといふ「信頼感」があったからです。

その「彼」もいま、長年の酷使に耐えかねてカバーは溶解し、砂を噛み、接触不良を抱えます。この間、世の中はフィルムからデジタルへ。製造元からは「修理不可能」の宣告を受け、もう大切な調査に携行できませんが、いまでも、「彼」で撮りたくありません。

人類は、道具を作り使いこなすことで、環境適応能力を大幅に変えられる唯一の動物です。その道具が借り物やまがい物であつては、ヒトは能力を開花できません。だから、使い慣れた道具が代えがたい宝物となるのでしよう。永の相棒に、感謝。



愛用のペンタックスSFX

特集 大学の教員 仕事の「相棒」

ヒト、チャンス、モノ、カネ

大学院理工学研究科 教授 高妻 孝光

大学教員の仕事とはと、改めて考えると、きわめて複雑多岐に渡ることに気がつく。そのような中で、研究と教育が最も重要な大学教員の仕事として考えた場合、というか、社会の中で生きていく上で、重要な相棒は、古びた言い回しかもしれないが、どう考えても、「ヒト、チャンス、モノ、カネ」である。昔ながらの言葉に「チャンス」を足してみた。この中で最上位は、疑うべくもなく「ヒト」である。国内外を問わず、多くの共同研究者に恵まれることによつて、ある意味、残りの3つの要素である、「チャンス、モノ、カネ」を補える。当然、資金があれば、装置や設備を導入し、それなりのアイデアで、研究と教育の機会を得ていくことは可能だろう。しかし、「ヒト」には届かないのである。

自然科学の研究と教育に携わっている。科学者は、時として激しく競い合うこともあるが、往々にして大らかである。見ず知らずの研究者からの手紙を受け取り、研究室に招待し、そして、新知識・新発見に立ち会う歴史的証人となるうと努力するのである。「ヒト」との出会いで、最も大切なのは、学生である。学生なくして、なんのいい研究も出来上がらない。学生は、常に新しい風を

吹き込んでくれる。大学教員冥利に尽きるところである。

「チャンス」といふ相棒も大切である。4つの要素の中で最も失いやすい。若ければ臆して出会うせず、歳を重ねると、保守的になって拒み、失う。気難しい相棒である。ひとたび、この「チャンス」とつきあい始めると、殊更に諸事解決に向かう頼もしい相棒である。環境は、「チャンス」との出会いによつて、自ら作るものであり、自分を変えてくれるものではない。環境とは、自分が行動した結果なのである。

「ヒト、チャンス」といふ強力な相棒が、きつと「モノ、カネ」といふ助人を連れてきてくれる。



ブルガリア科学アカデミーで迎えてくれた研究者たちと

動物達とともに築く教育・研究

農学部 准教授 安江 健

私の所属する「応用動物行動学研究室」はその名称の通り、動物の行動を研究して飼育管理の技術に応用する学問分野です。従って私の「仕事の相棒」はこれらの教育・研究に役立ってくれている「動物達」となります。

現在、研究室ではヤギ、ヒツジ、ニワトリを飼育しており、彼ら（彼女ら）は私や研究室の学生達に毎年貴重な「教育・研究の場」を提供してくれます。しかしこの「良き相棒」は「人間のかかる相棒」であることもまた事実です。「生きた相棒」であるがゆえに給餌などの飼育業務は一日も欠かすことができませんし、少しでも手間を惜しむとこちらの思うようなデータを取らせてくれません。

また、学生達の徹夜の看病にもかかわらず死んでしまったりすることもあり、こんな時は教員としての自分の力なさを痛感するとともに「彼（彼女）の死を無駄にしない」という決意を新たにします。逆に「こんな」手間のかかる相棒」であるがゆえに愛着もより深く、学生達は忙しい研究の合間を縫って動物達と戯れて（？）元気をもらっています。

現在、研究室のテーマの一つに「ヤギの食草行動を利用した耕作放棄地

の省力的再生に関する実証研究」があり、キャンパス近くの耕作放棄地でヤギの放牧試験を展開しています。仕事で深夜や明け方に帰宅する際、朦朧とした頭で私はよくこのフィールドに立ち寄ります。ある時は満天の星空のもと、またある時は一面に霜が降りた朝日の中、夜露や霜で濡れた身体から湯気を立ち上らせながら黙々と野草を採食して「放棄地を再生」している「相棒」の姿を見ながら、「よし！明日もがんばるゾー」と理由も無く拳に力を込めている私も、学生同様「相棒」から元気をもらっているのです。



ヤギの食草行動と排泄行動を調査中の学生

研究をすすめる時、ちょっとした休息の時、こんな心強い「モノ」「ヒト」が傍に居た。

ストップウォッチ／キッチンタイマー

教育学部 附属教育実践センター 准教授 正保 春彦

皆さんはストップウォッチとキッチンタイマーの違いは？と聞かれて即答できますか？ ストップウォッチは時間をカウントアップ（積算）していきませんが、キッチンタイマーはカウントダウン（減算）していきます。時間の流れを逆に計るわけです。

私の専門は心理学のグループ・アプローチです。グループ・アプローチとは人間のこころや人間関係の発展や改善のために人と人との相互作用を使う技法です。具体的には構成的グループ・エンカウンターやロールプレイングなどの活動を行います

が、これらは一定の時間の枠組みの中で様々な課題を行っていきます。中でも構成的グループ・エンカウンターは小学校や中学校などで授業

中に行うことも多く、時間管理に気を遣います。通常は時計やストップウォッチを使って大体の時間の流れを把握することで用が足りませんが、これはカウントアップ機能を使っているわけです。

しかし時には最初から制限時間を決めておいて、その枠の中で（場合によってはグループで競争しながら）活動を行うこともあります。そのときは時間をカウントダウンしながら行うことになります。

現在愛用しているのは「ドリテック時計付大画面タイマー」です。普通のタイマー、ストップウォッチはどちらかの一方の機能しか持っていないませんが、このタイマーは1つで両方の機能を備えているので、多様な状況に対応できます。00分00秒からスタートボタンを押すとカウントアップが始まり、一定の時間を入力してからスタートボタンを押すとカウントダウンが始まります。画面が大きく背面に磁石がついているので黒板等に貼り付けておけばメンバーも見ることができます。

ただし難点もあります。ボタンが押しやすいよう飛び出しているため、靴に入れて持ち歩いていると勝手にボタンが押されて、突然アラームが鳴り出して驚かされます。そんな私の仕事の相棒は時計機能もついているので、普段は研究室の机の脇で静かに時間を刻んでいます。



DRETEC 時計付大画面タイマー

大きな鞆の中味

工学部・都市システム工学科・教授 横山 功一

キャンパスで見かける先生方は、大きな鞆を持っている人が多い。授業のためにはいろいろなものが必要であるが、仕事をする上で他に何が入っているのだろうか？私もそこそこ大きな鞆を愛用している。私の仕事術に関係する鞆の中味をこっそり紹介しよう。

まず、筆記用具2、ノート4、クリアフォルダー数冊、小物入れ2、…。一つのペンケースを開けると、中から出てくるのは、黒ボールペン7本、赤2本、マーカー1本、シャープペンシル1本、消しゴム、付箋紙。筆記具は、もう一つのケースに7本、他に3本。ノートは、パソコンを持ち運びする人もいるが、私は通常大学ノート、システム手帳。これ以外にも、胸のポケットにボールペンとノート（GLOIRE、厚さ3mm）が入っていて、直ぐに用を足せるので使いやすい（携帯は記録には使わない）。その他でこれは重要というのは、電子辞書。用語、スベルの確認、英語の表現など、忘れていたことが多いので。随分前から使っていて最近のものは機能が向上しているので、そろそろ買え換えが必要。これ以外で目立つもの。薬！。ほとんどお世話になることがないが、風邪、胃腸、下痢、目、のど飴、リ



大きな鞆の中味

ップクリーム。
こう見てみると、私の鞆が大きいのは、仕事の必需品も入っているが、安心のためのグッズのためかもしれない。各自それぞれのノウハウがあるので、どうやったらスマートなキャンパスライフが送れるのか、工夫してみてください。

特集 大学の教員 仕事の「相棒」

フィールドノートは大事な大事な財産

人文学部・講師 小原 規宏

私の専門は地理学です。大学で学ぶ地理学は非常に細分化されており、自然の営みを対象とした自然地理学から人の営みを対象とした人文地理学まで多様です。その中で私の専門分野は、農村における人の営みを研究対象とした農村地理学です。多様な地理学ですが、研究方法の基本はどれも同じで、自身の足で探し出したデータを使ってデータマップを作成し、そのデータマップから特徴を読み解き、その特徴を生み出した要因を明らかにしていきます。そのため地理学の研究では、野外へフィールドワークに出かけることが多くなります。子どもの頃から里山で遊ぶことが好きであった私は、身近な環境である里山が急速になくなっていくことに疑問を抱き、農村地理学を専門として研究を始めました。それ以降、私の研究の相棒となったのがフィールドノートです。

フィールドワークが重要な地理学の研究において、フィールドで得られるデータを記録するフィールドノートは欠かすことのできない重要なアイテムです。研究を始めた頃には、なかなか小さなフィールドノートを埋めることができませんでした。指導教官とフィールドワークに出かけ、

十ページも埋めている指導教官の姿に感動させられたことを覚えています。今では、研究のフィールドワークだけでなく、学内を歩くときにもフィールドノートを胸のポケットに入れ、どんな些細なことでも書きとめておくようにしています。その時は些細なことであっても、数年後には貴重なデータとなることもあるからです。これまで各地のデータを書きとめてきたフィールドノートは、他の誰も持っていない私のオリジナルのデータ集となっております。大事な大事な財産となっております。



フィールドノート

●教育学部

養護教諭養成課程

皆さんは、保健室の先生の正式な名称をご存知ですか。私たちは、保健室の先生「養護教諭」になるための勉強をしています。

近年、養護教諭の果たす役割が、ますます重要視されてきています。そのため、身につけるべきスキルは多岐にわたります。応急手当の仕方や、それに必要な医学・看護学。いろいろな衛生検査や健康診断のこと。健康教育や健康相談活動のこと。加えて、カウンセリングの技能も必要になってきています。もちろん、他の学校教員養成課程の学生と一緒に教育学も学びます。専門の授業は、学科の仲間同士で作りに上げるものが多いので、みんなとても仲良しです。ワイワイ楽しく話すこともあれば、本音を語り合ったりもでき、素敵な雰囲気です。

七夕の日に浴衣を着て授業を受けたり、文化祭にはナース姿で健康診断のイベントや手作りパウンドケーキの販売をしたりと、学科独自の楽しいイベントもあります。

このように、いろいろな勉強や経験を通して、技術だけでなく、子どもへの寄り添える人間性を身につけることが、私たちの目標です。

教育学部 養護教諭養成課程

3年

萩原 智恵理



●理学部理学科

宇宙理論・解析グループ

また、その研究手段も、計算機を用いてのシミュレーションから、高エネルギーガンマ線の観測データの解析まで多岐にわたります。様々なスキルを身につけることができます。

研究室は明るく、和やかな雰囲気です。各個人の席は、パーティションで区切られていて、自分の作業に集中できるようになっています。その一方で共用スペースもあり、院生や学部生の枠を超えて交流を深めています。

興味を持って頂けた方には、一度見学に来て頂ければ幸いです。

理工学研究科自然機能科学専攻
博士前期課程1年 豊田 優介



私たちのグループは現在、柳田先生、横沢先生、吉田先生の三人の先生方の指導の下、院生八名、四年生十二名が在籍しています。このグループでは、宇宙における高エネルギー現象に関連して、ブラックホール物理学、宇宙線物理学、銀河間・星間物質における構造形成とその進化など、様々なテーマについて研究しています。

●工学部情報工学科

鎌田賢研究室

本研究室では、人間性を豊かにする・失敗を恐れない・はっきりとした意思を持つ・楽をするための努力を惜しまない!という「にしはら」スローガンを掲げています。

豊かな人間性は研究室での自炊から始まります。自炊を通して培われる連係プレーは研究にも活かされます。失敗を恐れずに、今までに無い新しい企画に取り組みます。もちろん、良い企画でも完成しなければ意味がありません。世の中に提供するというはつきりとした意思を持って、企画を製品レベルまで仕上げます。こうして、企画の提案から設計、実装、テストを経て、人々に喜んで使ってもらえるようなソフトウェアを世の中に送り出していくことが我々のミッションです。また、効率化のための自動化ツールの作成には努力を惜しみません。その結果、自分でするだけでなく、他の人々の役にも立つからです。

このような気合に溢れる先輩に恵まれ、私自身の成長を感じています。きっと将来は明るいと思う! 工学部情報工学科

4年

佐藤 由佳



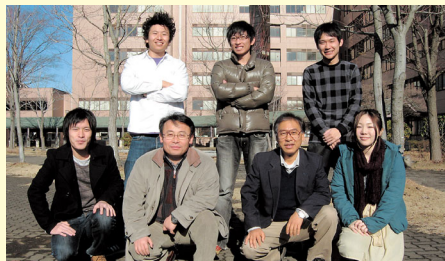
我々の研究室ではコンピュータプログラミングと電子回路を勉強しています。自分で考え調査研究することができるところに実力をつけていきます。研究室内で定期的に経過報告をして研究発表をする力をつけ、社会に出ても充分に力を発揮できるように目指します。

本研究室ではリナックス上でC/C++言語によるシステム構成を主な課題としています。プログラミングにおいては、最初は簡単な構造のもので自分の思った通りに結果が出ると面白いです。慣れてきたら複雑なシステムを構築できるようになり、それが動くようになれば感動ものです。区切りごとに研究室のみんなが集まり、忘年会や新年会を行うことにより親交を深めています。これにより研究室の雰囲気が一層フレンドリーになるので研究がはかどります。また、留学生がいるので国際交流ができ、いい経験をさせてもらっています。

理工学研究科 電気電子工学専攻
修士 1年 森 慎太郎

●工学部電気電子工学科

電子制御システム研究室



最近話題の「ecol」。この地球全体のテーマと戦っているのが、私たち分子微生物学・西原研究室です。

近年、「ガソリン」を問わず、水だけを出して走る「燃料電池式自動車」が実現化されつつありますが、高価で貴重な資源である白金触媒を使用する限り、普及が難しいのも現実です。

私たちは水素を使ってエネルギーを作り出す水素酸化細菌という特殊な微生物の持つ酵素を、この触媒として利用する研究をしています。また、産業構造のクリーン化、いわゆるグリーンケミストリーの技術として、産業上有用な酵素をこの菌に導入することで、水素を利用して反応が進むバイオプロセスを開発する研究にも取り組んでいます。未来は、私たち研究室と小さな微生物の大きな力が担っていくかもしれません！

普段は先生も好きなテニスで汗を流したり、アクティブで個性豊かなメンバーで笑い声の絶えない研究室です。ぜひ、一度遊びに来てください！

4年 佐々木 唯

●農学部資源生物科学科
分子微生物工学

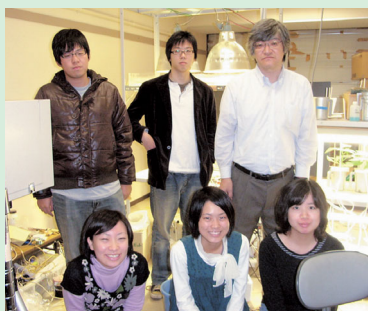
西原研究室

●農学部地域環境科学科
農環境システム学ゼミ

田附研究室

私たちの所属する農環境システム学ゼミでは田附明夫先生によるご指導の下、施設栽培野菜の生理反応（特に環境ストレスに対する反応）の解析ならびに野菜生産を支援する情報技術の開発を行っています。特に生理反応の解析には、情報技術、生化学、分子生物学的手法を用いて行うため、いろいろな分野の勉強がしてみたい！という好奇心旺盛なメンバーが集まった研究室です。もちろん、ひとつの分野について極めたいという人もいます。

週一回のゼミでは英語の論文によってこれらについて学びながらおやつを食べたり、学期の始まりや忘年会などの飲み会を欠かさず行ったり、息抜きをしながら和やかに行っています。わからないことは先生が丁寧に教えてくださるし、ゼミでやりたいうことの希望も聞いてくれるので自由で楽しい研究室です。興味のある方はぜひ一度見学いらしてください。地域環境科学科4年 岡本 玲奈



私たちのゼミには梁継国先生のご指導のもと、研究生を含め6名の学生が在籍しています。日中文化比較を中心にそれぞれの興味のある分野から研究テーマを決め、そのテーマに添って3年次からじっくりと卒業論文を仕上げさせていただきます。人数が少ない分、先生のご指導を細かく受けることができるのが特徴です。また学生同士でもお互いの論文を読みあつて、質問や意見の交換を活発に行います。私は、中国への留学経験を生かして日中の価値観の違いをテーマに研究しています。他の学生も、いろいろな側面からとらえた日中間のイデオロギーに関する比較研究をテーマにすることが多いです。例えば、日中両国の愛国主義教育問題、スポーツ制度の問題、最近中国企業の世界進出問題、日中両国人の面子感覚、同形異義語に見られる文化テク背景問題などがあります。テーマを決めたら、どのように章立てし、どんな結論に持っていくのか、そのために調べるべき資料は何かなどを先生と相談しながら進めていきます。また、年に数回、親睦を深めるための飲み会があります。和気あいあいとした雰囲気は、ゼミでの活動にも生きています。

●人文学部コミュニケーション学科
梁維国研究室



人文学部コミュニケーション学科 4年 丸山 知恵

●人文学部社会科学科
社会福祉論ゼミ

渋谷研究室



私たちのゼミでは、渋谷敦司先生のご指導のもと、現在3年生9名、4年生7名の計十六名が所属しています。このゼミでは、社会における福祉政策、家族政策の研究、そして、それらをエンターという視点から検討を行うことに特徴があります。

ゼミでは文献の輪読をメインに、各回のテーマについての担当者による報告と、議論を行っています。ここでテーマとなるのは、家族、雇用、教育、介護…など、福祉という生活に関わる身近な分野であり、またその研究も多岐にわたります。テーマ例をあげると、「親子と社会福祉との関係」、「介護と家族」、「女性の就労の現状」など、毎回様々な諸研究に触れることができ、渋谷先生のご指導や（特に育児に関する先生のご自身の体験談なども聞くことができます）、議論の中で自分の研究テーマの新たな切り口を見つけることもできます。各テーマで取り上げられている福祉政策、家族政策、社会の現状、課題について批判的な視点も交えながら検討、ゼミ生それぞれが自身の研究を深めていきます。

人文学部社会科学科 3年 菊池 聖子



第4回茨城大学国際学生会議が
平成20年11月1日(土)・2日(日)に
茨城県立図書館&茨城大学インフォメーション
センターで開催されました。

今年で4回目となる ISCIU が開催され、イノベーションというテーマに基づき、世界中の学生が論文発表を行いました。「Innovation (イノベーション)」には「新たな価値を生み出し、社会的に大きな変化をもたらす」という意味が込められています。「今後の人間の生活の為の技術的革新」をスローガンに日本を含め世界中8カ国から100件の投稿論文が集まりました。

海外学生の国籍はアメリカ、中国、シンガポール、ミャンマー、モンゴル、スリランカ、インドネシアと世界各地の学生が参加し、国内からは茨城大学の他に京都大学、筑波大学、千葉大学、群馬大学、神戸大学、茨城キリスト教大学と全国から学生が参加しました。

そして、ISCIU4 では日本の国際会議では初の試みとなる「高校生」の参加を実施し、茨城高専、福島高専、群馬高専、竹園高校、水戸第二高校の生徒が大学生と同じ条件で学会発表を行いました。

さらに、特別講演ゲストとして、2007年のノーベル賞を受賞した国連のIPCCから John E. Hay 教授 (ワイカト大学・ニュージーランド)、最先端の水処理技術を研究する東京大学若手 No.1 研究者 Faisal I. Hai 博士 (東京大学・バングラディッシュ)、

世界的に有名なロボットスーツ HAL 開発者の山海嘉之教授 (筑波大学・日本) の3名を招き、世界の最先端の研究をとてわかりやすく有意義に講演をしていただきました。

ISCIU4 は茨城県立図書館と茨城県三の丸庁舎内の茨城大学インフォメーションセンターで開催されました。規模の拡大によりセッションを3つの部屋に振り分け、同時進行で論文発表が行われました。今年はメディアへの宣伝に力を入れたため、新聞社、TV、ラジオ、茨城県内の雑誌などに取り上げていただき、大々的に宣伝をすることが出来ました。

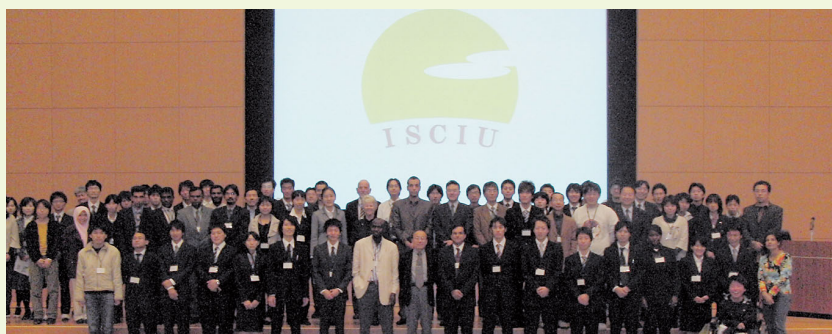
参加した学生は10分間の発表後、5分間の質疑応答をすべて英語で行ったため、とてもいい経験になったという意見が多くありました。また、今年は一般の方も多く聴講され、「世界の最先端を味わえることが出来た。茨城大学という枠を飛び越え、茨城県を代表するイベントに成長してくれば」と期待を寄せていただきました。

グローバル社会が進む今日において、世界中の学生が英語で様々な話題を共有したこの会議は、日本の学生を革新できたのではないのでしょうか。

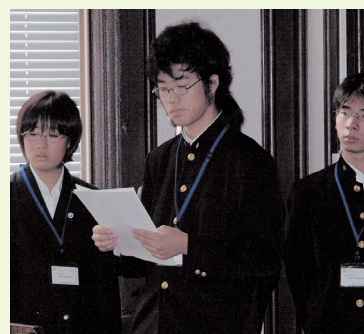
(第4回茨城大学国際学生会議実行委員長 宮下裕仁)



会議での発表風景



参加者での記念撮影



高校生による発表



海外の学生らとともに



特別講演ゲストの John.E.Hay 教授と



ISCIU4 学生実行委員メンバー

多賀工業会館が新しくなりました

多賀工業会(工学部同窓会)の活動拠点である多賀工業会館の増改築の竣工式と祝賀会が、平成二十年九月十九日に工学部で行われました。

竣工式では、池田幸雄学長、神永文人工学部長、寺門龍一多賀工業会会長らによりテープカットがなされ、続いて看板のお披露目がされました。かねてより、日立キャンパスに学生たちが互いにコミュニケーションを深める場を増やしてほしいという要望がありました。また、学生の進路相談や就職情報の提供についても、同窓会組織が積極的に係わり、準会員である学生への支援が求められておりました。

それまでの多賀工業会館は、築後三十四年を経過しており、老朽化が進み改築が必要とされてきました。そのため会館は利用し難く、学生の利用頻度は極めて少ないのが現状でありました。学生の勉学と厚生施設の充実、さらに学生と同窓生の交流の場を提供し、同窓会活動を活性化させることを目的とした今回の増改築により、改修建物の生協側に建物を増築し、間仕切りのない広々としたオープン空間である交流・多目的ホールを作りました。ホールには65型プラズマテレビを利用した多機能プレゼンテーションシステムを備え、各種式典、研究発表会、会議にも利用できます。



学生、同窓生、教職員の交流・勉学の場としての機能を持たせるため、移動式テーブルと椅子、移動式ホワイトボード等も多数配置しています。ホールの壁は多賀工業会の活動の紹介のための展示板としても活用できるようにになっています。同窓生を中心とした多くの善意による、多賀工業会館の増改築は、学生の勉学環境の充実、大学と同窓会との協力体制の強化につながるものとなりました。

(写真は神永文人工学部長(左)と寺門龍一多賀工業会会長による看板上掲式の様子)

史料集「文化六年石神組御用留」発刊しました

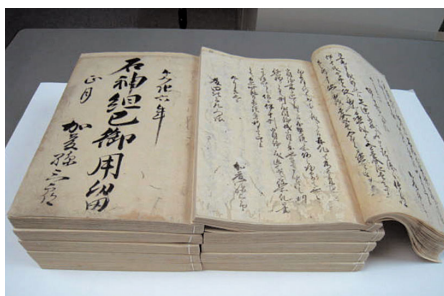
茨城大学図書館にはたくさん古文書があります。なかでも「文化六年石神組御用留」は一八〇九年に水戸藩の郡奉行所で作られた公用記録(二〇〇〇頁)で貴重です。この史料が記録されてから二〇〇年目にあたる今年二月、茨城大学と東海村が地域連携事業でこの古文書を解説・解説・脚注・索引をつけて全一冊(約七五〇頁)の本として活字化しました。同時に、解説過程での研究成果を史料集刊行記念

報告集も刊行し、関連シンポジウムを開催しました。

当時の水戸藩は一〇の行政区(組)に分かれ、うち八つの組には郡奉行が農村部に移り住み、郡奉行所(陣屋)が置かれていました。石神組は現在の日立市・東海村から常陸太田・那珂・ひたちなか市の一部を管轄する広大な行政区で東海村に郡奉行所がありました。郡奉行所が水戸城下に引き上げられる一八三〇年ごろまで、郡奉行は農村に住み、直接、領民と接してきめ細かい農村行政を行いました。

一八〇〇年ごろから水戸藩は内憂外患の多難な時代に入りました。外国からの侵入に備え、海防陣屋の建設を進めたり、荒れた農村を立て直すために領内の住民を詳細に調査させて生活保護の給付に努めたりする姿が、この「御用留」には生々しく記されています。このように農村を支配する郡奉行所の生の記録が現存するのは全国的にも珍しく、その意味で、本書が日本史全体の資料として広く活用されるのを期待しています。

(史料集「文化六年石神組御用留」編集：石神組御用留研究会 発行：東海村教育委員会 価格：三三〇〇円 申込先：東海村中央公民館 電話：〇二九・二八二・三三三九)



(写真は「文化六年石神組御用留」原本)

編集後記

表紙の写真は水戸キャンパス共通教育棟1号館横にある桜の木です。本誌の名称は「大きな百合の木の下で」ですが、自然に恵まれた茨城の地にあることから、本学のキャンパスには、百合・桜・楠・椿などさまざまな樹木が立ち並び安らぎの環境を作っています。

特に水戸キャンパス内に点在する桜は、ちょうど入学式の時期に満開となり新入生を迎えてくれます。(写真小：新歓祭の様子) 自然を含めたこれらの大学施設環境が、大学生活の大事な「相棒」と言えるでしょう。

●茨城大学ニュースレター「大きな百合の木の下で」17号 平成二十一年三月発行



●編集・発行 茨城大学PR委員会 ニュースレター編集部

●〒310-8521 茨城県水戸市文京一丁目一番一号 電話：〇二九・三三八・八〇〇八

●大きな百合の木の下では茨城大学ホームページにも掲載されています。

<http://www.ibaraki.ac.jp/>

Training Cars

高速教習車は、メルセデスベンツとトヨタプログレを使用しています。



無料スクールバスをご利用下さい。
(30分毎に定期便が送迎いたします)

公認  茨城県公安委員会指定
昭和自動車教習所

〒310-0851 水戸市千波町1987
TEL.029-241-0300(代)
教習時間/am8:30~pm7:20 休日/月曜日、祝日

HP http://n-soft.jp/showa_hp/

常陽 教育ローン 学援生活

入学金・授業料・
仕送りなどに
最高700万円
までご利用可能

ご利用もご返済も
ATMでOK
(ローンカード
タイプ)

審査結果は、
最短でお申込日
当日にご連絡!

※金利情勢により、金利は変更になる場合もございます。 ※審査の結果、ご希望に添いかねる場合もございますのでご了承ください。 ※詳細につきましては、店頭にて商品説明書をご用意しております。 ※ご返済額は店頭にて試算いたしますのでお問合せください。 当行ホームページ上でも返済試算ができます。

お問い合わせは
お近くの常陽の窓口、
または右記まで

常陽ハローセンター ☎ 0120-380-057 平日9:00~20:00 土曜10:00~16:00 (年末年始を除く)
当行ホームページからお申しいただけます <http://www.joyobank.co.jp/>

ベストパートナーバンク



平成21年3月1日現在

あなたに一番近い、通信制大学



放送大学をご存知ですか

放送大学はテレビ、ラジオで授業を行う正規の大学です。

- 自由な学習スタイル(自宅でマイペースに)
- 魅力ある授業が約300科目(学びたい科目だけを)

募集期間(年2回)入学試験はありません
4月入学(12月15日~2月末日)
10月入学(6月15日~8月末日)

茨城大学の単位を放送大学で取得しませんか
(放送大学で取得した単位を茨城大学の単位にすることが可能です)
...詳しくは茨城大学の事務局(学務課学務調査係)へ

【お問い合わせ先】

〒310-0056 水戸市文京2-1-1(茨城大学キャンパス内)放送大学茨城学習センター
TEL:029-228-0683 FAX:029-228-0685 <http://www.u-air.ac.jp>

地域と共に118年。
街の話題から最新ニュースまで、
茨城新聞がお届けします。

お試し購読できます

(試読紙は10~20日の間の1週間、無料でお届けします)

6カ月以上の新規購読の方に素敵なプレゼント
月ごめ購読料 2,905円(税込)

茨城のことなら
茨城新聞!



茨城新聞社

本社/水戸市北見町2-15 TEL029(221)3121(代)
編集センター/水戸市けやき台3-42-1 TEL029(248)5500(代)
購読のお申し込みはフリーダイヤル☎0120-029-218
<http://www.ibaraki-np.co.jp>



缶コーヒーのプロフェッショナル



広告を募集しています

茨城大学の広報誌に広告を掲載しませんか

年2回発行(3月、7月)【各号】12,000部【年間】24,000部
詳しくは、茨城大学総務課広報係

029-228-8008までお問い合わせください

ダイドードリンクは
「茨城大学 社会連携事業会支援事業」を支援しております

ダイドードリンク株式会社 営業開発部 東関東開発&茨城
TEL:029-244-9211 FAX:029-244-9213 イー・ドリンク関東株式会社